

落ち着いたたたずまいを見せる医学部周辺。課題の整理などで図書館を利用する学生が多いという



佐賀医科大学

鍋島キャンパス 図書館の利用多く

もあった。訪れたのが夕方だったせいも、学生たちの姿は少なく紅葉の木々と、建物の茶色がマッチして落ち着いた静かな雰囲気漂っている。

しかし、図書館に入ってみると、パソコンの前は満席。二階の個人学習ができるブースでは、調べ物をしている学生たちがいる。国家試験の前には利用する学生が多いとか。学習のための部屋は医学部会館にもあり、ここはグループでの学習室となっている。ちょうど利用していた看護学生たちに聞くと、講義で、グループに出された課題の整理や大学祭などの企画を練るときなどに使うという。

研究棟のロビーでは白衣姿のグループが静かに話し合いをしていた。医学部の多くの学生たちは卒業後、医者や看護師、保健師、助産師、研究者として保健・医療・福祉の分野で活躍する。この学びの時代に、専門的なことだけでなく人として必要な多くのことを学んでもらいたいと思いつながら医学部を後にした。

佐賀大学と佐賀医科大学が統合されて、現在の佐賀大学が誕生してもう四年たつが、いまだに佐賀市営バスの路線名に「医大」が使われているように、「佐大・医大」の方がとりがよいとある。

大学では、統合前の佐大は本庄キャンパス、医大は鍋島キャンパスと呼んでいる。鍋島キャンパスにある医学部付属病院には、お見舞いや子どもの病気で

たがびたび行くことがあったが、医学部の建物に足を向ける機会は今まではなかった。先日初めて医学部を訪ねてみた。

車を降りて、小高い丘のある広場に立つ付属病院と同じ茶色の講義棟、実習棟、研究棟などの建物が並んでいる。医学部には医学科と看護学科があるが、左手には看護学科棟もある。また、本庄キャンパスと同じように食堂や図書館、医学部会館定です。

(佐賀大学理事・北島悦子)
※次回は一月十五日に掲載予定。